

報道発表資料の配付日時 7月24日(水) 14時00分

発表項目 (行事名)	第41回「全日本中学生水の作文コンクール(中央審査会)」入賞者の決定について													
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者												
		発表場所												
概要	<p>◆全日本中学生水の作文コンクール(中央審査会)</p> <p>全日本中学生水の作文コンクールは、「水の週間(8月1日から7日)」の行事の一環として、昭和54年から国土交通省等が主催し、毎年実施しています。</p> <p>道では、このコンクールと連携して、北海道地方コンクールを毎年実施し、今年度は優秀賞2編を全日本中学生水の作文コンクール(中央審査会)に推薦したところです。</p> <p>(北海道地方コンクールの受賞者の決定については、6月24日(月)11時に) 報道発表資料を配付いたしました。</p> <p>◆全日本中学生水の作文コンクール(中央審査会)入賞者</p> <p>全国から応募のあった290校12,760編の中から、地方審査を経て選出された176編と海外日本人学校から送付された6編の計182編について、中央審査会において審査が行われ、最優秀賞1編、優秀賞9編、入選32編が決定されました。</p> <p>このうち道内からは、田近峰々さんの作文が入選に決定されました。</p> <table border="1" data-bbox="422 1198 1417 1377"> <thead> <tr> <th>賞</th> <th>氏名</th> <th>所属中学校</th> <th>学年</th> <th>作品名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入選</td> <td>たぢか 田近 峰々</td> <td>長沼町立長沼中学校</td> <td>3年</td> <td>水を受け渡す</td> </tr> </tbody> </table> <p>なお、入選受賞者に贈呈される賞状及び副賞については、所属中学校を通して伝達することとしております。</p>				賞	氏名	所属中学校	学年	作品名	入選	たぢか 田近 峰々	長沼町立長沼中学校	3年	水を受け渡す
賞	氏名	所属中学校	学年	作品名										
入選	たぢか 田近 峰々	長沼町立長沼中学校	3年	水を受け渡す										
参考	<p>◆全日本中学生水の作文コンクール実施要領…別紙1</p> <p>◆入賞者一覧…別紙2</p> <p>◆入賞作品 …別紙3</p>													
報道(取材) に当たって のお願い														
他のクラブ との関係	同時配付 同時レク	(場所)	※国土交通省同時発表 ※空知総合振興局記者クラブ同時配付											
担当 (連絡先)	総合政策部政策局土地水対策課土地水調整G主幹 大島 TEL ダイヤルイン 011-204-5135 (内線 23-713)													

「全日本中学生水の作文コンクール」実施要領

平成13年1月18日
13国水策第279号

1 目的

「水の日」及び「水の週間」の行事の一環として、次代を担う中学生を対象とした作文コンクールを実施することにより、広く水に対する関心を高め、その理解を深めることを目的とする。

2 実施主体等

- (1)主 催 水循環政策本部、国土交通省及び都道府県
- (2)後 援 関係省及び関係団体の後援を得ることができる。

3 実施内容

- (1)名 称 全日本中学生水の作文コンクール
- (2)対 象 中学生（中学生と同じ学齢の者を含む。）
- (3)課 題 水について考える（題名は自由）
- (4)審 査 審査は、地方審査及び中央審査とする。
 - ア 地方審査は、各都道府県において定めるところによる。
 - イ 中央審査は、国土交通省に置かれる中央審査会において行う。
 - ウ 中央審査会に関しては、国土交通省水管理・国土保全局水資源部長が定めるところによる。
- (5)賞及び副賞
 - ア 最優秀賞は、1編とし内閣総理大臣賞とする。
賞状に加え副賞を授与することができる。
 - イ 優秀賞は、8編を基本とし厚生労働大臣賞、農林水産大臣賞、経済産業大臣賞、国土交通大臣賞、環境大臣賞、全日本中学校長会会長賞、水の週間実行委員会会長賞、独立行政法人水資源機構理事長賞とする。なお、必要に応じて中央審査会特別賞を設けることができる。
賞状に加え副賞を授与することができる。
 - ウ 入選は、ア及びイ以外の作文で30編程度とする。
賞状に加え副賞を授与することができる。
 - エ 佳作は、中央審査へ送付された作文のうち、ア、イ及びウを除く作文とする。
記念品を授与することができる。
- (6)入賞発表及び賞状等の授与
 - ア 入賞発表は、都道府県を通じ入賞者へ通知する。ただし、外国に居住する者については、国土交通省水管理・国土保全局水資源部から所属学校を通じ入賞者へ通知

する。

- イ 最優秀賞及び優秀賞の受賞者は、水循環政策本部、国土交通省、東京都及び水の週間実行委員会が主催して行う「水の日」の行事に招待し、賞状及び副賞を授与する。ただし、外国に居住する者については、賞状及び副賞を送付してこれに代える。
- ウ 入選受賞者へは、都道府県又は国土交通省水管理・国土保全局水資源部から賞状及び副賞を送付する。
- エ 佳作受賞者へは、都道府県又は国土交通省水管理・国土保全局水資源部から記念品を送付する。

(7) 一日事務所長体験 最優秀賞及び優秀賞受賞者のうち、希望者については、在住地域の地方整備局等又は水資源機構の現地事務所等において「一日事務所長」の体験をすることができる。

(8) 作文集 国土交通省で作文集を作成し、水循環政策本部及び国土交通省水管理・国土保全局水資源部のホームページにて公開する。

(9) 著作権等

- ア 応募作文は自作の未発表のものに限る。
- イ 入賞作文の使用権は、主催者に帰属する。
- ウ 応募作文の返却は行わない。

4 その他

その他、このコンクールの実施に関して必要な事項は、別に国土交通省水管理・国土保全局水資源部長が定めることができる。

附 則

この要領は、平成 23 年 11 月 9 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 26 年 2 月 4 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 26 年 7 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 27 年 2 月 23 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 27 年 7 月 1 日から施行する。

第41回全日本中学生水の作文コンクール入賞者一覧

賞名	都道府県名	作文の題名	氏名	学年	学校名
最優秀賞 内閣総理大臣賞	福岡県	水・・・時空を超えてすべてをつなぐ	宇野 誠洋	1	福岡教育大学附属福岡中学校
優秀賞 厚生労働大臣賞	群馬県	自然の恵みが世界中に届くことを願って	福田 優花	2	群馬大学教育学部附属中学校
優秀賞 農林水産大臣賞	宮崎県	水神様への感謝を現代に	亀岡 千愛	2	宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校
優秀賞 経済産業大臣賞	群馬県	「世界水の日」について気づいたこと	丸山 佳大	2	群馬大学教育学部附属中学校
優秀賞 国土交通大臣賞	神奈川県	ともに未来を望みて	柳川 心菜	2	横浜国立大学附属横浜中学校
優秀賞 環境大臣賞	熊本県	ふるさとの水物語	樋口 頌子	1	熊本大学教育学部附属中学校
優秀賞 全日本中学校長会会長賞	佐賀県	水の二面性	北村 菴清	2	佐賀大学教育学部附属中学校
優秀賞 水の週間実行委員会会長賞	インドネシア 共和国	水という存在	木下 結花	2	ジャカルタ日本人学校
優秀賞 独立行政法人水資源機構理事長賞	愛知県	人災を封じ災害を防ぐ	真野 聡真	2	扶桑町立扶桑中学校
優秀賞 中央審査会特別賞	岩手県	水と共に生きる	小野寺 麻緒	2	陸前高田市立高田第一中学校
入選 (32編)	北海道	水を受け渡す	田近 峰々	3	長沼町立長沼中学校
	青森県	小さな行動 大きな結果	工藤 小陽	2	八戸市立是川中学校
	青森県	水がうみ出すもの	辻 啓生	3	むつ市立大湊中学校
	青森県	雨の秘めた可能性	林 かれん	2	八戸市立是川中学校
	福島県	クニマスと水	佐藤 壮真	3	西郷村立西郷第二中学校
	茨城県	ホタルの光	網水 莉々	1	土浦日本大学中等教育学校
	栃木県	水から学んだこと	澤井 優実	3	佐野日本大学中等教育学校
	群馬県	水とともに築く未来	廣田 佳央	3	群馬大学教育学部附属中学校
	群馬県	水の旅	原 隆太	2	群馬県立中央中等教育学校
	埼玉県	首都圏外郭放水路から水を思う	山田 真子	1	浦和実業学園中学校
	東京都	おいしい水は	古川 真大	3	新宿区立新宿西戸山中学校
	神奈川県	ホタルの棲む大岡川に	西川 真由	3	洗足学園中学校
	神奈川県	湧水から学んだこと	小泉 晶絵	1	聖園女学院中学校
	神奈川県	技術の進歩によって失われるもの	藤井 幸子	2	洗足学園中学校
	富山県	私達がつなげる水のバトン	中野 友貴	2	富岡市立牧野中学校
	静岡県	巴川のいいところ、お伝えします。	飯塚 颯	3	静岡市立清水第八中学校
	愛知県	黄金堤と吉良様	石川 昂平	2	碧南市立新川中学校
	三重県	川の水のもたらす暮らしの豊かさ	菜山 百音	1	高田中学校
	京都府	有栖川の清掃活動	山下 莉咲子	3	京都学園中学校
	大阪府	新しい時代につなぐ水	藤山 ゆかり	1	大阪教育大学附属池田中学校
	大阪府	水の行き先	平野 暖奈	2	四條畷学園中学校
	兵庫県	かけがえのない大切な水	天羽 悠月	3	神戸市立平野中学校
	和歌山県	美しい水と、共に。	大棟 日花莉	2	和歌山県立向陽中学校
	徳島県	新たな決意	笠江 彰	3	阿南市立那賀川中学校
	愛媛県	水は限りある資源	阿部 裕介	2	今治市立大西中学校
	福岡県	水の現場で感じた感謝	宇野 由里子	3	福岡教育大学附属福岡中学校
	佐賀県	治水と自然	岡本 陽	3	佐賀県立唐津東中学校
	長崎県	持続可能な社会における水の重要性	黒田 美也	1	学校法人九州文化学園 九州文化学園中学校
	熊本県	水の恵みに感謝する	山下 真愛	2	玉名市立玉名中学校
	大分県	地域で守る畷川	土岐 百合子	3	大分西中学校
	宮崎県	水でつながる	菊地 心音	2	宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校
	鹿児島県	もったいないをなくす	高牟禮 華乃	3	出水市立高尾野中学校

水を受け渡す

長沼町立長沼中学校 3年 田近 峰々

私の住む長沼町。北海道だけに冬はやはり気温が低い。だが、町民の心はみな温かい。「いいから。いいから。」と笑いながら、みんながみんなを助け合ってきた。そんな長沼町は、2年前に開基130年を迎えた。それを記念し、開村、開墾の演劇「大地の侍—吉川鉄之助翁物語」が公演された。そこで私は、初めて長沼町の驚きの歴史、「水との戦い」を知るようになった。

長沼町は、2つの大きな川に挟まれている。さらには、低い土地が多いため、開墾当初から頻繁に水害に見舞われてきた。その数は、70回以上。毎年のように起こる水害が、作物や家、そして人命までを奪っていったのだ。十数年もの歳月を費やして、川の流れを変える大工事が行われ、併せて堤防や排水施設が造られた。ようやく水害を防ぐことに成功したのだった。

長沼の水との戦いは、水害だけに終わるものではなかった。生活用水の確保にも、相当な苦労があったのだ。市街地など低い土地に住む人たちは、生活用水として川の水を使っただけで、川から水を運んでくるのがまず大仕事。そのうえ、水の汚れがひどいため、一度濾して使わなければならなかった。昭和28年に上水道ができたが、長沼町全域にきれいな水が行き渡るようになったのは、昭和43年のことだったという。

多くの苦労をものともせず、困難に立ち向かい、支え合いながらすばらしい町を築いてきた長沼の先人たち。それは「水との戦い」の歴史だったのだ。今の私たちの生活があるのも、こうした先人たちのおかげなのだ。

でも私は、そんな先人たちの苦労を全く知らずに生活してきた。だから、水に関心をもったこともなかった。「蛇口をひねれば水が出る」。それは当たり前の感覚だった。水を出しっ放しにしても何も感じなかった。こんな感覚のままでいいのだろうか。先人たちの「水との戦い」の歴史は、別に知らなくてもいいものなのだろうか。

そんなはずはない。現に日本の水の資源は、年々減少しているにもかかわらず、水の使用量は逆に年々増加しているという。このままだと深刻な水不足になってしまうのは明らかだ。そうなるからでは手遅れだ。水がなければ人は生活できないし、生きていくこともできない。そんな状況を、先人たちが望んでいたわけではない。

先人たちの「水との戦い」は、今の私たちが水に無関心になり、贅沢な水の使い方をしてほしかったからでは決してない。長沼に生きる人々の暮らしに、水が不可欠で大切なものだから、苦労してまでも水と戦い、水を治めてきたのだ。

だから、今すぐに節水など水を大切にしていかなければならない。手洗い、洗顔、シャワーのときは、水を出しっ放しは厳禁だ。水を出したままにすると1分間に12リットルもの水を消費するという。また、排水にも気を使うべきだ。コップ1杯の油を下水に流すだけで、それを浄化するために60トンもの水が必要になる。また、水質汚染が進めば、水を飲めなくなる恐れだってある。先人たちが守ってきた水を、今度は今の私たちが守っていく番なのだ。

蛇口を開けるたびに水が出る。先人たちの思いがこもった歴史ある水だということをつつも心に刻み、大切に使っていきたい。今ある貴重な水、水の戦いから生まれてきた人々の温かい心、これらを守り、それを後世に遺していくのは、私たちでしかないのだ。だから、長沼の開祖、吉川鉄之助から始まる先人たちからの水への思いを受け継ぎ、未来の人たちへとその思いを受け渡していくこと、さらには、長沼から北海道へ、日本へ、世界へと水への思いを広めていくこと、それが今の私たちの使命だと思っている。